

平成30年度 英語科新任授業研修会 報告書

1. 目 標 「新しい時代の英語教育」
2. 日 時 平成30年11月16日(金) 13:25～15:50
3. 会 場 静岡県富士見高等学校 (富士市平垣町1-1)
4. 参加者 教員経験5年程度の英語教員29名および専門委員7名
5. 日 程
開会式 13:25～13:35
①挨拶 英語科専門部会会長 谷野 純夫
(常葉大学附属常葉中学校・高等学校長)
静岡県富士見中学校・高等学校 袴田 四郎 校長
②授業者・助言講師紹介
授業見学 13:45～14:35
静岡県富士見高等学校常勤講師 前 翔哉 先生
特進コース1年「コミュニケーション英語Ⅰ」
PRO-VISION English Communication Ⅰ(桐原書店)
合評会 14:45～15:40
15:00までグループワーク、その後各グループで出した
意見を代表者が発表
指導講評 静岡県総合教育センター 総合支援部 高等学校支援課
高校第1班 教育主任 土井 弘子 先生
閉会式 15:40～15:50

6. 内容

〈授業〉 プロジェクターを使用、問題文、タイマーなどを画面に表示して授業

【段階1】 導入

- ・ 前回の復習 ①2分間で各自本文を読む(画面にタイマー表示)
②ペアに日本語で内容を伝える(2分間)
③確認プリントの答え合わせ 生徒を指名し答えさせる
(画面に答えを表示)

【段階2】 展開

- ・ 新出単語の確認 ①教師の発音を繰り返す
(画面に一語ずつ、発音記号と共に大きく投影)
②発音練習をする
- ・ 本文の内容理解 ①教師の説明を聞く(画面に本文を投影)
②ノートに大事だと思ったところを書く
③質問に答える
④音声を聞く
⑤音読する(教師の後に続けて読んだ後、もう一度読む)

【段階3】まとめ

- ・本文の問題確認、答え合わせ

- ①ペアの片方が質問を音読し、もう片方が答えを言う
- ②答えを確認する

〈合評会〉

グループワーク後の感想

- ・分量が多いのに生徒も真面目に取り組んでいた。
- ・最初の指示がチャイムと被っていた。明確に指示が聞こえるようにした方が生徒も動きやすい。
- ・本文の訳を予習で学んでいるのならば、訳に時間をかけるのではなく、文法等に時間をかけても良いのではないか
- ・机間巡視をもっとして困っている生徒のフォローをしたらどうか。
- ・生徒が集中できないことが多いのに、このようにできているのは ICT の効果と、生徒に対する問いかけがあるからではないか。とても良いことだと思う。
- ・生徒との関係作りができていたのではないか。発問と答えがすぐに返ってくるのが素晴らしいと思う。
- ・ICT の活用でテキパキ進んでいたが、口頭で説明していたためどれだけ生徒たちが理解しているかのチェックが難しいのではないか。もっと工夫が必要だと思う。
- ・質問→予習課題の指示はどんなものだったのか？
回答→単語の意味を調べる。本文を5回くらい読んでくるそして日本語を見てくる。
練習問題は解いてくるように伝えてある。
- ・電子黒板が使うことで効率の良い授業ができてうらやましい。どうしても板書の時間に生徒の集中が切れてしまう。
- ・電子黒板で視覚的にできていてうらやましい。でも写真や絵も取り入れたらもっと良いのではないか。
- ・本文の内容に対して自分たちの意見を出す場面があっても良かったのではないか。
- ・発音の確認→発音記号が出ていて良かった。

③助言者 静岡県総合教育センター総合支援部高等学校支援課高校第1班教育主任
土井 弘子先生より

- ・ICTをうまく使うためには
→答えだけを投影するのではなく、本文を投影して根拠の部分を示す。生徒たちに主体的に本文を読ませ、答えを導き出させたい。
→写真や図や絵を投影させた方が良い。(教材選びはむずかしいが)
教科書の図や絵を使っても良いと思う。
- ・本日の授業について
①生徒との関係がよく、先生の指示がよく通っている。
②英語で授業ができる力をつけてもらいたい。ただ、先生がしゃべりすぎては

いけない。そのための指示の仕方を勉強してほしい。

- ・ 研究授業参観カードの説明(授業作りのポイント)
 - 教員の指示が明確である。
 - 生徒の英語による言語活動が授業の中心となっている。
 - 思考を深める発問が設定されている
 - Output するのに十分な Input が確保されている
 - Information gap を生かしたやり取りがある。
 - 自己選択・決定をし、自分の意見を表現する場面が設定されている
 - 技能を統合した活動が設定されている
 - 積極的・適切にほめ言葉を用いて生徒のよさを引き出している(Positive feedback)
 - 生徒が英語で適切に伝えられないときに支援している。
 - 単元の中で Goal Activity に繋がる授業となっている。
 - 文法は Context(文脈)の中で学ぶように工夫されている。

- ・ 学習指導要領改訂の方向性のプリントの説明
- ・ 学習指導要領は34年に新しくなるが、それを待たずに、今の学習指導要領、今の教科書で新しい学習指導要領の視点を持って取り組んでほしい。

(記録：焼津高等学校 倉島 隆)